

1 宮城の水産業の特徴

宮城県は全国屈指の水産県です。本県の沿岸域は、県の中央部に突出した牡鹿半島を境に、北は複雑に屈曲した海岸線のリアス海岸、南は平坦な砂浜海岸が仙台湾を形成するなど、地形の変化に富んでおり、ノリ、カキ、ワカメ、ホヤ、ホタテガイ、ギンザケなどの養殖業やサケ、タラ、カレイなどを対象とした刺網漁業、小型底びき網漁業などの漁船漁業が盛んです。また、本県沖合は親潮と黒潮がぶつかる生産性の高い海域であり、三陸沖漁場は世界3大漁場としても有名です。

さらに、本県には143の漁港と9か所の水産物産地卸売市場があり、気仙沼、南三陸、石巻、女川、塩釜は、沿岸・沖合・遠洋漁業などの漁船漁業の基地であるとともに、魚市場などの流通機能や水産加工業が集積する水産都市となっています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、本県水産業は甚大な被害を受けましたが、国や民間等から多くの支援をいただきながら、水産業関係者が一丸となって復旧・復興に取り組み、産業規模はおおむね震災前の水準まで回復しました。これからは、水産業が豊かな自然環境と調和しながら、地域社会を支える活力ある産業としてより一層発展するよう努めていきます。

